

**ご本部では、7月1日から土日祝日の
正午からおつとめがつとめられます。**



6月26日 ご本部祭典日 11時41分 撮

ひきよせ

天理教夕張大教会
北海道岩見沢市9条西6丁目
〒068-0029 ☎0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
HP bariten.main.jp
yubaridai146@gmail.com

貴方への手紙 (316)

7月7日現在、九州各地では過去に経験のないほどの突発的大雨によって甚大な被害が出ており、被災された人やお亡くなりになった方が多く、心からお見舞い申し上げます。

我が家のお嫁さんは熊本県出身なので出里に電話で安否確認をしたところ、幸い無事とのこと聞いています。

コロナ禍の今、避難するにも細心の注意を払わなければならず、これ以上の被害の拡大が無いように祈るばかりです。

未だ組織的な災害救援ではないのですが、多くのお道の人々が駆けつけ、水、発電機、食料、衣類など運び込み緊急の救援活動をしている様子が伝わります。実に頭が下がる思いです。

「0、1、1、0」この数字は、7月4日から7日まで4日間の朝刊に載った北海道の新規感染者数です。数字の上では少し落ち着いてきたことにホッとしています。しかし一喜一憂できません。波が何度も押し寄せる懸念があります。これまで同様に三密を避け、手洗いマスクを忘れない行動が求められます。

それにしても今は次第に日常活動が再開されなければどうに

お知らせ

9月20日 今年のひきよせ大会は従来の形を取りやめ、ネット配信等、新しい形で開催致します。
7月27日からの「教人資格・教会長資格講習会」
8月期の修養科 受け入れあります

もなりません。社会が閉塞して

しまいます。正しく恐れなさいと言われます。科学的に考え配慮しながら、我々の信仰活動において、できることから再開しなければなりません。月次祭への参拝も少しずつ回復したい気持ちがあります。

7月からは御本部の月次祭参拝の形が変わり、毎月大教会ごとに人数枠が割り振られ教会長が神殿に昇殿させてもらえるようになりました。祭典以外の時間には信者さんも自由に参拝ができます。状況は少しずつ変わってきています。団参はできなくても家族ごとや、教会単位でのおおぼ帰りは始まっています。さて全国の数字を見ると関東の数字が下がります。お盆の時期、講社まつりに行く予定がまだ立てられない状況です。

関西ではいつも大阪、京都、奈良、兵庫などの数字を見るのですが、かなり治まっているように感じます。しかし微妙な波があります。皆さまも新聞での新規感染者数が気になることで

しょう。

このように今は毎日の生活にこの流行のことを意識しない日がありません。生まれて初めての事態ですが気持ちが縮こまってしまうえば身体も弱いかねません。「今できること！」と北海道では標語を掲げています。我々も「今できることがある」と3年前から掲げています。しかし今のご時世にできることは少ない。

ですが、このような状況下にあっても、我々は気持ちを大きく持って心豊かに人様の幸せを祈り、笑顔と感謝でこの事態に負けないよう過ごしたいのです。教祖時代にはもともと深刻な病気の流行が何度もあったことはご承知のとおりです。ほうそ(天然痘)で多くの人が亡くなりました。恐ろしいコレラが何度も流行しました。その中でも世界いちれつをたすける教えを広め続けておられたのですから私たちはそれを思い、せめておつとめによって毎日本人様のたすかりを祈ることはさせて頂きたい。

それは『今できること』です。今、信者さんとのつながりを深めるには手紙、電話、メール、ラインなどを駆使していることと思います。いろいろ工夫はありますが「ひきよせ」など同封する際に手書き文字を加える気持ちがいざ立つのではないのでしょうか。

「清水與一先生ご逝去」

私は7月8日の飛行機で兵神大教会へ向かいます。前会長清水與一先生の葬儀で、8日、9日に参列します。

先生は7月4日夜遅くにお出直しになりました。満72歳。享年74歳。私より学年が一つ上で、父母と共に家族が兵神詰所に住まわけて頂いていた昭和29年頃、よく一緒に遊びました。5歳頃です。チャンバラごっこ、鬼ごっこ、相撲。ちゃん付けで名前を呼んでいました。私が小学校に入るとき、家族で岩見沢の現在地に戻ってからは会うことは少なくなりましたが、いつも意識していました。

次に再会したのは高校生の時です。その時は大きな身体の圧倒的な先輩でした。こちらは親しい気持ちでしたが、ちゃん付けで名前を呼ぶことはなくなりました。

以後、私が兵神大教会に住み



六月月次祭の様様

6月に入り、北海道は20度を超える日が増え、気候的には過ぎやすい季節となった。しかし、蝦夷梅雨ともいいうのか、雨の日も多くジメジメした生活の中、マスクを着用しての生活

に息苦しさを感じ始めた月でもあった。5月に続いて、14日の月例会議並びに各会の例会は中止。それぞれが粛々と祭典の準備を進めていた。迎えた15日は岩見沢も24度まで上がり、夏が近づいている事を感じさせる気温となった。今日もおつとめ奉仕者のみでの祭典とし、参拝中の距離を取り、換気・消毒を徹底、各人常時マスク着用と、コロナ対策を取った祭典であった。

開扉献饌のち祭文奏上。祭文にて大教会長はコロナウイルスに揺れる世界情勢について触れ、この大節を乗り越えて次の世界へ進むためには一れつ兄弟としての自覚が肝要である、と述べ、更なる教への広まりに歩みを進めていく事をお誓い申し上げた。

続いて座りづとめ・十二下りのてをどりがつとめられた。気温が高くなっている中、マスクを着けたままのおつとめは息苦しく、特に地方・おてふりの各人は汗を掻きながらも勇んだおつとめをつとめていた。

講話に先立って、5月のお運びで教会長のお許しを戴いた、栗山分教会の新会長となった富山知一氏が紹介され、拍手が巻き起こった。また、先日出直された、竹田笑子・馬追三代会長



夫人、大橋美枝子・由仁三代会長夫人、大西雅彦・津別三代会長の御霊に黙とうをささげた。講話に立った大教会長は「おちばの様子を申しますと、4月は緊急事態宣言時だった為、直属教会長もおちばへ帰らないようにとのお達しで、私も大教会におりました。5月は直属教会長も参拝を許されまして、参拝場に点在して参拝しました。6月には奈良県の教会長達が昇殿参拝をするそうです。

国が配布しているマスクがようやく届きました。色んな所で非難の声が出ているようですが、喜んでくれる人もいます。給付金も徐々に出てくるようです。まだまだ普段通りとはいいかず、各種行事も軒並み中止となっていますが、この7月から修養科・講習が再開されます。今回の7月から9月の修養科に、後継者の藤田大和が一期講師として参ります。どうぞよろしくお願ひ致します（拍手）。

各教会で信者さんへの説明に苦慮しているところかと思えます。それぞれの状況に合わせて、対応して頂きたいと思えます。講社づとめが中断しているところ、参拝になかなか来られないところ、色々と話を聞いています。心倒さずにお通り頂きたい。家内が足の手術の為に入院し退院、この度久々に参拝出来ました。2か月程の入院期間でしたが、時節柄見舞いには行くことが出来ず、その間私も顔を合わせる事が出来ませんでした。左足首の軟骨がほぼ無くなって歩く度に痛みを起こしていた。私は手術といったら、何か人工的なものを軟骨の代わりに入れるのかと思っておりましたが、軟骨のあった部分を釘を使って浮かせるんですね。すると時間を掛けて自分の身体が、空いた所に骨を充填していくんだそうです。人体の不思議と、ご守護の素晴らしさを感じました。

この時期、私達に出来る事は少ないように思いますが、人の為に祈る、おつとめはさせてもらえらる事ですね。今コロナで世界が揺れている状況で大事な事、内統領先生はキーワードとして『優しさ』を挙げておられました。世間がギスギスしている中、求められるものはやはり、優しさだと思えます。教祖の言葉に

もよく『陽気づくめ』と出てきます。こんな状況下でこそ、陽気づくめの生活が出来るのが一番です。

なかなか勇めない日々が続いていると思いますが、そんな中私達は、喜びと笑顔を少しでも周りの人達に伝えていく事が出来たらいいですね。先日、防護服やフェイスシールドを寄付さ

旬を食べれば免疫力アップ

今年もウナギの受難の日が近づいて来た。御本部の月次祭には、必ず立派なウナギが供えになります。

今年もウナギが豊漁らしく、安いようだが、それより随分昔の、奈良や平安時代から、土用の丑にはウナギで、精をつける。と言われているわけではなく、天理教立教の天保時代、190年前あたりで、お江戸の繁盛しないウナギ屋が、学者の平賀源内に、キャッチフレーズを作ってもらい、流行らせたらしい!!

もちろん、ウナギには、夏場の魚なのに脂がのっついていて、ビタミンAが豊富で眼にも良く、免疫力がアップし、体力をつけるにも、もってこいと言う!

初夏の旬のモノは果物でしょうね?イチゴ、サクランボやメロン、ビワ、スイカ、もも、



今、季節を越えて、どんな食材も手に入りますが、気を付けないといけません。

せて頂いた市立病院も大変喜んで下さいました。大きな事は出来ないかもしれませんが、そのような取り組みをしていけたらいいと思います」と語った。

祭典後は奉仕者が揃って撤饌と復旧を手際よく終え、先月と同様にお下がりのパンを頂いて帰っていった。

ブドウなど、どれも美味しい!

しかし、「朝の果物は金だが、夜には銅以下になる」と言われる。これは消化吸収の点から言っているのだから、その摂る量にも関係することだが、子供は夜には、うり、もも、パイナップル、バナナなどは下痢を起こしやすい、と。教会のお泊まり会に夜のスイカは、さけた方がいいかも?

新しい生活様式の中で

祝梅分教会

高橋 太志(布教部長)

いつもの7月ですと「こどもおぢばがえり」や自教会の「夏季練成会」を楽しみに過ごすのですが、今年は寂しい夏を迎えています。

私は4月に教養掛として3月の学生おぢばがえり、4月の教祖ご誕生祭や婦人会総会など多くの方がおぢばにお帰りになるお世話ができると思っておりますが、「非常事態宣言」により、どなたもお帰りになることができませんでした。しかし、5月になり本部月次祭は神苑に入り参拜できることとなり、7月からは12月まで直属教会ごとに割り当てられた人数での、教会長の昇殿参拝ができることになりました。また7月からは土日祝日の12時に拍子木を入れてのおつとめが行われています。

自教会の月次祭でもいつもとは違う月次祭となりました。4月末に本部から「各教会が所属するようばく・信者の心情によく配慮し、月次祭への参集を控えるなど、直属教会よりご指導をお願いいたします。」という内容の文章を目にし、5月は自

教会でもハガキでご案内をしました。教会に向かず自宅でおつとめをされる方もいらっしゃると思いますが、どうしても教会で参拝したいという方もいらっしゃると思います。どちらも自分の持病や職場、家族や周りの方の事を考え決めた事ですから、どのお考えも親神様は真実として受け取ってくださると信じています。

私の教会では、おつとめ衣に着替える部屋が密になることから、おつとめ衣は会長夫妻のみが着用し、密を避け、マスク着用、手の消毒や換気に気をつけながら、お越しの方は教服やハッピーでつとめていただき、祭典後は会長が手短かに御礼の挨拶のみし、お下がりとお弁当をお渡しして自宅に戻っていただきました。6月からは広いスペースで着替えをして頂いています。この夏は熱中症や食中毒などにお互い注意し工夫をしながらつとめていくこととなります。

信者さんのお宅にもなかなか出向くことができません。病気になる不安で電話をくださった信者さんもおられ、電話でゆっくりとお話をさせていただき、その後、御供(ごく)とお手紙を送りました。対面でのおたすけなどは難しい時期ですが、非

思います。

私達は親神様から身体をお借りしています。もしかしたら、マスクをすること、手洗い、換気などは借りている身体を大切に使用させていただく当たり前の事だったかもしれません。そう思うと「めんどくさいな」という気持ちには心で浮かんではきません。お借りしている身体を大事に使わせていただこうと思えます。

教祖は、「不足に思う日はない。皆、吉(よ)い日やで。世界では、縁談や棟上げなどには日を選ぶが、皆の心の勇む日が一番吉日やで」と教えられました。

新型コロナウイルスの「ふし」の中、明日の不安や過去に心を奪われず、今あることに感謝や喜びの気持ちが生まれれば、その日は間違いなく良い日になるのだと思います。新しい風景を前向きに捉え、心地よい喜びの日々を送れるよう努めたいものです。それが今できることの一つだと思えます。

新しい生活様式の中で、マスク越しになるのですが、皆様とおぢばや大教会でお会いできることを楽しみにしております。

前期講習を受講して

馬追分教会 本田 聖子

今年の3月に、大腸ポリープの身上をいただきました。
 大きいからと、札幌の病院を紹介され、2回の入院でとれたポリープは、4センチにもなっていました。退院してからも気持ちが悪れることなく、陰気ぐらしの毎日でした。

馬追分教会の6月の月次祭、新型コロナウイルスの影響で、休んでいた教人資格講習会が再開すると聞き、「どうしても行きたい」と受講を希望しました。おちばに在るといふ安心感、とても魅力的な講師の方々、素晴らしい級友と、弱っていた心にとどんでん充電されていくのがわかりました。毎日のご守護のありがたさを実感し、今回の身上が親神様、教祖のお導きだったと強く思い、弱っていた心にとどんでん肉づけして頂いたこと



本田聖子さん(左)と藤田豊さん(右)

に感謝しています。

北海道にもどり、病理検査の結果を聞くとポリープはがんだったので「もしや！」と覚悟はしていました。気が持ちは裏腹に身体は震えていました。医者は、続け様に「取り切れていません。一年後に定期受診して経過観察して下さい」と言われま

つぱいになりました。親神様、教祖の存在を力強く感じ、これからも信仰を深め、この喜びも我が子にも伝えたいと思えました。

講習、受講中!

幌部分教会 藤田 豊

6月27日から7月17日までの21日間、おちばの教会長資格講習を受講しています。一般的におちばで学ぶことのできる最後の講習会です。

皆さん真剣な姿勢で講義を受けています。僕自身もこれまでの勘違いに気づくことが多々あり、目からウロコの連続です。起床が早く、眠気も襲います。でも勉強の時間は貴重なもので何か学びたいと思っています。

講習と言えば、元々の検定講習を覚えている人が多いと思

ますが、現在は教人資格講習と名前を変え、前期、中期、後期とあり、修養科を修了した人や3日講習会を修了した人が受けることができます。それは5日間ずつ三回に分けて受けることができ(もちろん通して前中後と受けることもできます)、勤務の関係で日程が取れない人にも本格的な勉強ができるよう工夫されています。

この講習会は改めて教理を学ぶのに絶好の場所だと思えました。

防護ガウン縫製寄贈 ご支援有難うございました

新型コロナウイルスの影響により、医療機関で深刻化した物資不足。この報道を受け、何かお役に立てないかと始まった「防護ガウン縫製寄贈プロジェクト」は、夕張の皆様はじめ全国の教友皆様様の尊いご真実をお寄せ頂き、お陰様で6月末に一区切りを迎えました。

インターネットなどを活用してご協力の呼びかけを行ったところ、ガウンの元となるポリエステル製生地を提供数が1061枚。ガウン縫製および裁断などのひのきしん者数は、夕張関係、他直属をあわせて15教会、



1布教所、2支部と、個人25人の皆様。そして出来上がったガウンは、7都道府県16カ所の医療機関および介護施設へ、1210着を寄贈させて頂くことが出来ました。

医療機関様からは本当に沢山の御礼状や、お喜びのお声を頂いております。ご協力や応援下さいました皆様に、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございます。の天理時報にも掲載されています。



寄贈したガウンを着用して作業する医療従事者

庶務部 6月

- ▽修養科一期講師(94期) 藤田 大和(札幌)
- ▽教人資格講習会・前期受講 本田 聖子(馬追) 6・27〜7・1
- ▽教会長資格検定講習会受講 藤田 豊(幌都) 6・27〜7・17

大教会日誌抄 6月

- 1日 たすけ推進会議
- 7日 栗山青年会ひのきしん ひきよせ編集 13日
- 14日 月次祭準備
- 15日 月次祭
- 20日 会長夫妻、兵庫・藤原宅へ
- 23日 会長、おちばへ
- 26日 本部長、おちばへ
- 27日 会長、かなめ会
- 28日 会長、帰会

7月1日 青年会で 薪割りひのきしん

